



図 10 「長崎県英語教師塾」コース選択後の画面。



図 11 「英語学」のトップ画面。



図 12 「異文化理解・国際理解教育」のトップ画面。講義と授業の実践例を分けている場合は、「導入編」と「実践編」というタイトルでそれぞれを教科トップページ画面の中に設けてある。

図 13 「文学（児童文学等）」のトップ画面。



図 14 「英語教育」のトップ画面。



図 15 「英語教育における ICT 活用」のトップ画面。

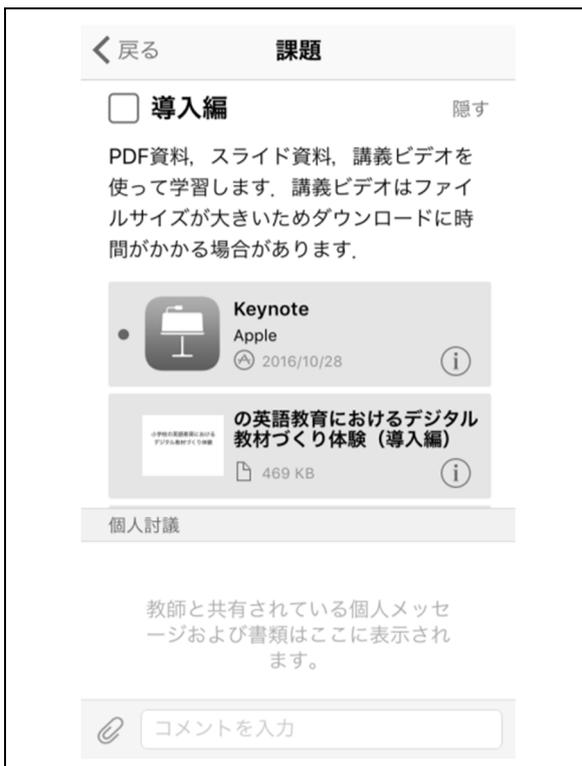


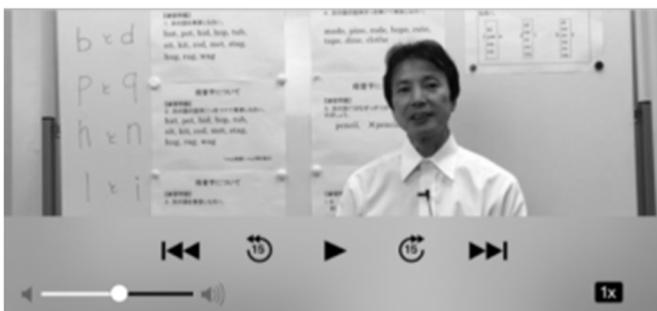
図 16 教科トップ画面の次ページ。ここから動画や書類が視聴・ダウンロードできる。



図 17 「書類」の項目には、書類をまとめて保存してあるので、ここからまとめて閲覧・ダウンロードできる。

1. 英語学

発音と綴り字の関係



<p style="text-align: center;">アルファベットなどの文字の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 「外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、音声面を中心とし、アルファベットなどの文字や単語の取り扱いについては、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いること。」 <p>(『小学校学習指導要領』第4章・第3「指導計画の作成と内容の取扱い」)</p>	<p style="text-align: center;">アルファベットなどの文字の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 例えば、アルファベットの活字体の大文字及び小文字に触れる段階にとどめる。 ○ 児童に対して過度の負担を強いることなく指導する必要。 ○ 外国語の音声に慣れ親しんだ段階で開始するよう配慮する必要がある。 ○ 発音と綴り字との関係については、中学校段階で扱うものとされており、小学校段階で取り扱うことはしていない。 <p style="text-align: right;">(『小学校学習指導要領解説』 p.19)</p>
<p style="text-align: center;">今日行われている指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声によるコミュニケーションを「補助する」ものと位置付けられている。 アルファベット活字体(筆記体ではない)の大文字と小文字の違い 絵カード等の提示教材に文字を添える。 身近なアルファベット文字を探したり、それらを書き写す。 	<p style="text-align: center;">発音と綴り字の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字指導よりもなお慎重であるべき、というのが学習指導要領の立場。そうしたなかで考えられる指導は、 <p>(a) アルファベットの文字を見て、それが何という文字であるかを認識し、その読み方を言う。 (b) 発音と綴り字の関係を学習する前に、当該語の音声に十分慣れ親しんでおくこと。 (c) 指導者は、英語の音声学(可能ならば音韻論も)学び、英語の音声に関する知識と技能を備えていること。 (d) 小学校外国語活動は、年間35時間、2年間で70時間。そのなかで、発音と綴り字の関係まで指導することは困難を伴う。 (e) このようなことから、『小学校学習指導要領』では、発音と綴り字の関係は、中学校段階で取り扱うこととしている。</p>
<p style="text-align: center;">Hi, friends! Plus</p> <p>○以下の指導に関する新たな教材です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期学習指導要領の改訂に向け、身近なことを基本的な表現によって「聞く」「話す」ことなどに加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことができるよう、映像や音声を活用。 アルファベット文字の認識。 日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き 語順の違いなど文構造への気付き等 	<p style="text-align: center;">文字の有用性を考える(1)</p> <p>→音声とともに文字の働きについて話し合わせたり(保存がきく、時間と空間を越えられる、文字は、人間だけがもつ固有能力の産物、etc.)、文字のない生活を想像させたり、漢字もひらがなも配列順が違うと意味が通じなくなったり、別の語を表すようになったりする(かば→ばか(別の語)、いちご→*ごちい、*ちいご (gibberish))。こうして文字の有用性に気づかせる。</p>
<p style="text-align: center;">文字の有用性を考える(1)</p> <p>→音声とともに文字の働きについて話し合わせたり(保存がきく、時間と空間を越えられる、文字は、人間だけがもつ固有能力の産物、etc.)、文字のない生活を想像させたり、漢字もひらがなも配列順が違うと意味が通じなくなったり、別の語を表すようになったりする(かば→ばか(別の語)、いちご→*ごちい、*ちいご (gibberish))。こうして文字の有用性に気づかせる。</p>	<p style="text-align: center;">文字の有用性を考える(2)</p> <p>→音声は、その場限り(発声した瞬間に消える)ので“deictic”な特性がある。その場(にいない人)に、その場の発話を伝えたり、情報を保存(または記録)しておいて、後で再現するには「文字」があると役に立つ。</p> <p>→音声には発音の個人差があるので聴いて理解できないこともあるが、文字で綴ると、あとで考え直して理解することもできる。文字の発明(とそのずっと後に発明された活版印刷術 [1476年 William Caxton])によって「ことばの標準化(標準語・共通語)」が大きく促進される(今日のネットやラインの普及なども比較して考えてみる)。</p>

<p style="text-align: center;">間違いやすいアルファベット</p> <p>→形状の似た文字は、特に取り上げるようにする。例えば、bとd, pとq, hとn, lとi, jとiやなど。ひらがなでも混同が起こる(「さ」と「き」、「あ」と「お」など)ので、アルファベットも同じように起こる。</p>	<p style="text-align: center;">アルファベットの練習(1)</p> <p>→アルファベットカード(ハイ・フレンズ教材)を利用して、小文字と大文字で形が似ているものと異なるものなどに分類させたうえで、個々の文字の違いを見分ける作業をする。</p>
<p style="text-align: center;">アルファベットの練習(2)</p> <p>【ペンマンシップ】 実際に文字の練習をしよう。 書き順にも注意しよう。 形状の似た文字に注意しよう。 例えば、bとd, pとq, hとn, lとi, jとiやなど。 ひらがなでも混同が起こる(「さ」と「き」、「あ」と「お」など)ので、アルファベットも同じように起こる。</p>	<p style="text-align: center;">母音字について(1)</p> <p>母音字には2つある。短音と長音 (a) 短音(典型的には、語末が子音字で直前に母音字のときは短音)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ä: pat (hat, sad, match, flash, wrap, man, stand) • ê: pet (set, red, fresh, pen, step, send, desk, belt) • î: pit (lip, mid, fish, six, quiz, film, sick, pig, peg) (gym, myth, hymn, nymphなど1音節語は少数) • ô: pot (top, job, hot, dock, box, fox, log, blond, pond) son (ME [sun]>[san]) • û: put [ʌ](ゴルフの「ハット」)が正音(but, mud, judge, just, lunch, pub, truck) • put [u]は副音(OE:pūtan [piutən]>[pju:tən]>[put])
<p style="text-align: center;">母音字について(2)</p> <p>(b) 長音(語末に子音字1つ + [e]があるときは、[e]はたいてい発音せず、強勢のある母音字は「長音化」する。長音とは、文字通りの長音と二重母音も長音。全て語末に「e」であることに注意。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ä: make「アー」ではなく、[ei]。GVSにより[a:]>[ei]。 (tape, take, shade, safe, name, lame, tale) • ê: me「エー」ではなく、[i:]。GVSにより[e:]>[i:]。(It's <u>me</u>.) (eve, theme, meter, Sweden, Steve) • î: mile「イー」ではなく、[ai]。GVSにより[i:]>[ai]。 (like, time, file, wide, wife, size, quite, dine, mine, find) (ˈɪnd, ˌɪld, ˌɪghで終わる語の「も」[ai]: mind, kind, mild, child, high, night) • ô: mole「オー」ではなく、[ou]。GVSにより[o:]>[ou]。(もぐら、ほくら) (robe, mode, rode, stove, home, slope, pole, bone) • û: old, ˌolt, ˌostで終わる語の「も」[ou]: bold, cold, colt(仔馬),holt(森), post, most) • û: mule「ウー」ではなく、[iu]。同化により[iu]>[ju:]。(ラバ、スリッパ) • (duke, mute, tube, fuze, tune, assume, tune) 	<p style="text-align: center;">母音字について</p> <p>【練習問題】 1. 次の語を発音しなさい。 hat, pet, hid, hop, tub, sit, kit, cod, met, stag, hug, rag, wag</p>
<p style="text-align: center;">母音字について</p> <p>【練習問題】 2. 次の語の語末に「e」をつけて発音しなさい。 hat, pet, hid, hop, tub, sit, kit, cod, met, stag, hug, rag, wag</p> <p style="text-align: right;">*stag[雄鹿], wag[尾を振る]</p>	<p style="text-align: center;">【練習問題2】の答え</p> <p>hate, Pete, hide, hope, site, kite, code, mete, stage, huge, rage, wage</p> <p style="text-align: right;">*kite [凧], mete[境界]</p>

<p style="text-align: center;">母音字について</p> <p>【練習問題】 3. 次の語を発音しなさい。</p> <p>made, pine, rode, hope, cute, tape, dine, clothe</p> <p style="text-align: right;">16</p>	<p style="text-align: center;">母音字について</p> <p>【練習問題】 4. 次の語の語末の・eを除いて発音しなさい。</p> <p>made, pine, rode, hope, cute, tape, dine, clothe</p> <p style="text-align: right;">17</p>
<p style="text-align: center;">【練習問題4】の答え</p> <p>mad, pin, rod, hop, cut, tap, din, cloth [klɒ] or [klɔː]</p> <p style="text-align: right;">18</p>	<p style="text-align: center;">母音字について</p> <p>【練習問題】 5. 次の語にはなぜ・eがつかないのかを考えてみましょう。</p> <p>pencil, ×pencile</p> <p style="text-align: right;">19</p>
<p style="text-align: center;">母音字について</p> <p>【練習問題】 6. 次の語にはなぜ・eがつくのかを考えてみましょう。</p> <p>(1) nice, *nic (2) create, *creat (3) dance, *danc (cf. [dæns], [dɑːns])</p> <p style="text-align: right;">20</p>	<p style="text-align: center;">二重母音字について(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ee [i:] green, see, 語中、語末で[i:] • ie [i:] field 語中では[i:], 語末では[ai]と発音 (die, lie, pie) • oa [ou] boat • ai [ei] maid -iで終わる二重母音(ai, ei, oi)は語中(このみ)生起 • ay [ei] may -yで終わる二重母音(ay, ey, oy)は語末(このみ)生起 • ei [ei] rein(手綱) -iで終わる二重母音(ai, ei, oi)は語中(このみ)生起 • ey [ei] they -yで終わる二重母音(ay, ey, oy)は語末(このみ)生起 <p style="text-align: right;">21</p>
<p style="text-align: center;">二重母音字について(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • oi [ɔi] boil -iで終わる二重母音(ai, ei, oi)は語中(このみ)生起 • oy [ɔi] boy -yで終わる二重母音(ay, ey, oy)は語末(このみ)生起 • au [ɔ:] sauce -uで終わる二重母音(au, eu, ou)は語中(このみ)生起 • aw [ɔ:] law -wで終わる二重母音(aw, ew, ow)は語末(このみ)生起 • eu [ju:] feud(不和) -uで終わる二重母音(au, eu, ou)は語中(このみ)生起 • ew [ju:] few -wで終わる二重母音(aw, ew, ow)は語末(このみ)生起 <p style="text-align: right;">22</p>	<p style="text-align: center;">二重母音字について(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ou [au] count, out(一般に見られる) -uで終わる二重母音(au, eu, ou)は語末のみ [ou] shoulder, soul(少し見られる。例外的) • ow [au] allow, cow, now -wで終る二重母音(aw, ew, ow)は語末のみ [ou] grow, show, snow (owを[au]と[ou]で読むのは半々程度) • oo [u] book, good, look, took(周辺の) [u:] cool, pool, tool(一般に見られる) [ʌ] blood, flood(例外的) <p style="text-align: right;">23</p>

<p style="text-align: center;">二重母音字について</p> <p>【練習問題】</p> <p>7. 次の語の語中の母音を取り換えて発音しなさい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">ai</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">l aw n</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">ea</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">oa</td></tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">ai</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">f ee l</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">oi</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">oo</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">ou</td></tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="border-collapse: collapse;"> <tr><td style="padding: 2px;">ai</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">b ea t</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">ee</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">oa</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">oo</td></tr> <tr><td style="padding: 2px;">ou</td></tr> </table> </div> </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">24</p>	ai	l aw n	ea	oa	ai	f ee l	oi	oo	ou	ai	b ea t	ee	oa	oo	ou	<p style="text-align: center;">【練習問題7】の答え</p> <p>lain, lawn, lean, loan fail, feel, foil, fool, foul bait, beat, beet, boat, boot, bout</p> <p style="font-size: small;">* foil (アルミホイール、金属の箔) beet (大根類), boot (長靴) bout (ひと期間、ひと仕事)</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">25</p>
ai																
l aw n																
ea																
oa																
ai																
f ee l																
oi																
oo																
ou																
ai																
b ea t																
ee																
oa																
oo																
ou																

2. 異文化理解・国際理解教育

異文化理解と国際理解教育の基本的な内容を学ぶ。

導入編



<p>異文化理解・国際理解教育</p>	<p style="text-align: center;">異文化理解・国際理解教育</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユネスコ • 日本の独自路線 • 膨大な学説や理論で現場は混迷 <p>この混迷の中で英語教育(外国語活動)が同時に行われる。</p> <p>cf. 中国: <日本と中国の国際理解教育の現状の比較> 秦莉(2014)「中国の経済発展地域における国際理解教育の現状と課題—蘇州市工業園区における調査を中心に—」(奈良女子大学、学位請求論文)</p>
---------------------	---

<p style="text-align: center;">活動の段階</p> <p>1. 知る: 文化について知る活動、Q&A</p> <p>2. 気づく: 類似点・相違点に気づく活動・日本との比較</p> <p>3. 親しむ: 異文化間のコミュニケーションを体験する活動、ALTや外国人との交流 (松井・田室 2014, p. 97; 伊藤 2000(に基づく))</p>	<p style="text-align: center;"><i>Hi Friends! 1 Lesson 9</i></p> <p>A: "What would you like?" B: "I'd like American lunch, Hamburger, and soda, please." A: "Here you are." B: "Thank you."</p> <p>→ロールプレイング & 異文化の知識 (松井・室田 2014, pp. 95-96)</p>
<p style="text-align: center;">現実の文化的不理解の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校での集まり ・ 常に遅れてくる海外の児童や保護者 <p>「日本人は時間に厳格、海外の人は時間にルーズ」 →「兄弟の世話、生活の大変さ」</p> <p>ステレオタイプ、偏見から理解へ。 体験は時間とともにリアルタイムで理解が変わる。 (松井・室田 2014, p. 100)</p>	<p style="text-align: center;">文化的差種と文化的差異</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化的差種: 言語化できる →異なる言語・文化の人々とのコミュニケーションへの興味を促進する動機づけ、将来のための知識 ・ 文化的差異: 日常的経験・言語化できずにいる →ステレオタイプ、偏見=これを除去することが異文化の理解 (松井・室田 2014, pp. 97-98)
<p style="text-align: center;">平成23年度改定</p> <p>「学習外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」</p> <p>「聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」</p>	<p style="text-align: center;">目指すところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目指すところ 将来のための準備より、「いま・ここ」にいかにすること=人間性の発達 <p>=決めつけるのではなく、理解する人。理解しようとする、考えようとする姿勢を育む。</p>
<p style="text-align: center;">ではどうするのか? 年齢に応じた具体的授業</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>Curtain, H. and Pesola, C. A. (1994) <i>Language and Children: Making the Match</i>. New York: Longman.</p> <p>H. カーテン・C.A. ペソラ 『児童外国語教育ハンドブック』伊藤克敏・鶴田公江・久保田信一・渡辺真訳、大修館書店、1999.</p> </div> </div>	<p style="text-align: center;">教師に求められる能力 & 具体的授業案</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>Byram, M. (2008) <i>From Foreign Language Education to Education for Intercultural Citizenship: Essays & Reflections</i>. Clevedon: Multilingual Matters, 2008.</p> <p>マイケル・バイラム『相互文化的能力を育む外国語教育—グローバル時代の市民性形成をめざして』細川英雄監修、山田悦子・古村由美子訳、大修館書店、2015.</p> </div> </div>

<ul style="list-style-type: none"> Information Gap 理解したい事例を題材にとり、それを考えさせる、理解させる。 教師が事例を提案。(投げ入れ教材等) 児童の「自分史」(海外の人と出会ったとき、メディアで。どう思ったか、とくに理解できないと思ったこと、その時どう思ったかを書かせ、そのことについてじっくり考えさせる) 他国の小学生とのメールや実際の交流を通して。 リアルタイムの共感理解 他国からの児童がいる教室では、一緒に演劇を行う。その体験を通して文化的差異の理解に導く。 物語を用いた共感的理解。(マイノリティ文学) <ul style="list-style-type: none"> 英語の授業で行うことが難しいとき 1. 英語より内容を優先する。(Curtain, H. and Pesola, C. A., 1996) 2. 英語の授業は英語に特化し、宿題として行わせる。 	<p style="text-align: center;">参考文献</p> <p>松井かおり・田室寿美子(2014)「多言語・多文化共生社会における『ドキュメンタリー演劇』の可能性①—英語授業における異文化理解教育との比較から」、『片平』49号, 95-104.</p> <p>Byram, M. (2008) <i>From Foreign Language Education to Education for Intercultural Citizenship: Essays & Reflections</i>. Clevedon: Multilingual Matters, 2008. [マイケル・バイラム『相互文化的能力を育む外国語教育—グローバル時代の市民性形成をめざして』福川英雄監修、山田悦子・古村由美子訳、大修館書店、2015]</p> <p>Curtain, H. and Pesola, C. A. (1994) <i>Language and Children: Making the Match</i>. New York: Longman. [カーテン・ペソーラ『児童外国語教育ハンドブック』伊藤克敏・鶴田公江・久保田信一・渡辺真訳、大修館書店、1999]</p> <p><日本と中国の国際理解教育の現状の比較> 秦莉(2014)「中国の経済発展地域における国際理解教育の現状と課題—蘇州市工業園区における調査を中心に—」(奈良女子大学、学位請求論文)</p>
---	--

実践編

<p style="text-align: center;">異文化理解・国際理解教育 (実践編)</p>	<p style="text-align: center;">Curtain, H. and Pesola, C. A. (1994) <i>Language and Children: Making the Match</i>. New York: Longman.</p>  <p>H. カーテン・C. A. B. ペソーラ『児童外国語教育ハンドブック』伊藤克敏・鶴田公江・久保田信一・渡辺真訳、大修館書店、1999.</p>
<p style="text-align: center;">文化教育目標 (H. Need Seelye, 1984)</p> <ol style="list-style-type: none"> 文化に基づく行為の意義と機能 言語と社会的変数の相互作用 同じ状況下でも慣習によって行為は異なる 日常のことが表す文化的な含意 ある社会に言われていることが、本当かどうかあらためて評価してみる → <u>文化的差異</u> 外国文化を調べる 外国文化に対する態度 <p>(H. カーテン・C. A. B. ペソーラ, pp. 180-1)</p>	<p style="text-align: center;">具体例 (Ibid., pp. 180-1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 文化に基づく行為の意義と機能 話す時の身体的近さ: ラテンアメリカ<アメリカ 言語と社会的変数の相互作用 日本では対人関係や社会的地位によって、互いに別々の呼び方をする。

<p>3. 同じ状況下でも慣習によって行為は異なる 町で出会ったとき:ヨーロッパ=東の間でも立ち止まって握手、日本=お辞儀、南アフリカ=しばしば抱擁</p> <p>4. 日常のことはが表す文化的な含意 幸運の言葉:フタ・白馬・コウトリ・煙突掃除人=ドイツ、コウトリが家に巣を作る=オランダ</p>	<p>5. ある社会に言われていることが、本当かどうかあらためて評価してみる→文化的差異 家の中のドアをきちんと閉めない。ドイツ=だらしない、アメリカ=友好的。</p> <p>6. 外国文化を調べる</p> <p>7. 外国文化に対する態度 実際に海外の人に接してみる</p>
--	--

Information Gap: For Communication
共通の話題で異なる情報を抜き、抜けているところを言葉で教えて理の合う。

A

朝食-

月 カレーライス

火

水 肉じゃが

木 うどん

金

B

朝食-

月

火 スpaghetti

水 肉じゃが

木

金 ラーメン

A: What's Tuesday's lunch?
B: It is ~. What's Monday's lunch?
A: It is ~.

A	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1	Japanese	Mathematics	Social Study	Japanese	Mathematics
2	Social Study	English	Art	P.E.	English
3	Science	Ethics	Science	Japanese	Science
4	P.E.	Music	Science	Music	Social Study
5	English	Mathematics	Domestic Science	P.E.	
6	Art	History	Ethics	English	Japanese

B	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
1	Mathematics	Social Study	Japanese	Mathematics	
2	Social Study	English	Art	P.E.	English
3	English	Japanese	Science		
4	P.E.	Music	Science	Music	Social Study
5	English	Japanese	Mathematics	Domestic Science	
6	Art	History	Ethics	English	Japanese

C, D, Eと大人版でも可能。

(目標) ②
「せーの、ドン」

A

「賛成！」を行動で表します。

拍手をしてください。
(アメリカ人)

B

「賛成！」を行動で表します。

机をたたいてください。
(ドイツ人)

A: Why did you do it?
B: Because I am a German. Why did you do it?
A: Because I am an American.

他にも、たとえば、天気。
「いい天気」:日本人=晴れ/カンボジア人=曇っていて過ごしやすい天気。
「雨」:日本人=「幸先が良い」/カンボジア人「幸先が良い」(目標4)

「なぜなど」
For Communication
絵を複数描いておく。その特徴を表す英語を語り合って、何を言っているのか当てる。
例: リンゴ、オレンジ、キュウリ。

A

It is round.

It is red.

B

It is long.

It is green.

あるいは、リンゴ、オレンジ、キュウリの絵のどれかひとつを消したカードを考え、左側(真ん中、右側)は何か尋ね、それを単語で答えるのではなく、上のように特徴を英語で言って、何かを当てさせる。

目標5
文化として当然と想われていることを確認させる。あるいは、そうとは異なることを示す。
例: 時間に沿っていませんでした(課外活動、グループ活動)、理由を言わせる。

A (中国人)

My parents work hard every day.
My sister is 3 years old.
I take care of her.

B (ベトナム人)

We understand the job and we start doing it.

いろいろな国語について書く。あるいは、「それでは、日本人なら(アメリカ人なら、イギリス人なら)どうなるのか、考えさせる(調べさせる)。

文化的差異・差種を教授するための知識例
藤本久司(2011)「文化の種類とコミュニケーションギャップ」、『人文論叢: 三重大学人文学部文化学科研究紀要』28, pp. 145-155. <http://miuse.mie-u.ac.jp/bitstream/10076/13160/1/10C16455.pdf>

- 「Pタイム型文化」/「Mタイム型文化」(エドワード・T・ホール)
- Pタイム(多元的時間)=1つの時間に複数のことをする。仕事の中身よりも、その時々を大事にする。人との交流・関係構築と維持を重視。時間的スケジュールは努力目標。多くのアジアの国、アラブ諸国、ラテンアメリカ、ギリシャ・トルコなど地中海沿岸諸国。
- Mタイム(単一的时间)=1つの時間に1つのことをする。時間通り予定遂行。人間関係より仕事の実質、内容、実績に重点。ドイツ、アメリカなど。